

## 平成 23 年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要について

## 【全般】

問題作成にあたっては、中学校学習指導要領に沿い、中学校の日頃の学習で積み上げられた基礎学力を計るものであるとともに、単なる知識だけではなく、思考力、判断力、表現力等を問うものとなるよう配慮した。

学力検査の平均点と得点分布状況は別紙のとおりである。5教科の平均点は284.7点で、昨年度に比べて6.9点上がった。平均点が上がった教科は社会(+11.1点)であり、その他の教科は昨年度に比べて若干低くなった。

(国語 - 0.9点、数学 - 2.1点、理科 - 0.3点、英語 - 1.0点)

## 【国語】

文章を読解する基本的な力、意見文を書く力については、中学校での継続的な学習の成果がみられた。しかし、話を正確に聞き取る力、文章や場面の全体を読みこなす力、条件を踏まえて的確にまとめる力には差がみられた。また、語彙力、口語文法にも課題が残った。今後は、言語事項の基本を丁寧に押さえた上で、長めの文章を読みこんだり、条件に応じて適切に表現したりする学習が望まれる。

## 【社会】

全体的に正答率が高く、地理・歴史・公民各分野とも、基本的な知識は概ね身につけていると考えられる。また、グラフや地図などの資料の読み取りについても、中学校における学習の成果が見られた。一方、資料等から考察した内容を論理的に説明する問題については、解答しようとする意欲は感じられるものの、問われていることを正確に読み取り、それに沿って的確に表現する力が不足していると感じられる。今後はこうした力を伸ばすことが望まれる。

## 【数学】

数と式の計算や関数、図形に関しての基礎的・基本的な知識や技能に関しては概ね定着しており、中学校における学習の成果がうかがえる。しかし、グラフから必要な情報を読み取り数学的に処理する力や整数や図形に関しての与えられた事柄が成り立つ理由を考察して論理的に表現する力、空間図形を認識する力については課題がある。今後は基礎的・基本的な内容の定着と計算力の養成を図るとともに、前述の課題にみられるような力を伸ばすことが望まれる。

## 【理科】

第一分野、第二分野とも基礎的・基本的な知識・技能の事項については正しく理解されており、正答率が高かった。一方、観察・実験の結果を整理し考察する学習を想定した、文章記述で答える問題やグラフ作成技能についての問題、さらに化学変化において反応する物質の関係の規則性を問う問題の正答率は低かった。今後、目的意識をもって観察・実験を主体的に行い、その結果を図、表、グラフ、文章等の多様な形式で整理して分析し、考察する力の育成が望まれる。

## 【英語】

「聞くこと」に関する問題については、全体的に正答率は高く、中学校での「聞くこと」についての学習の成果がうかがえる。「読むこと」及び「書くこと」に関する問題は、正答率が低い。今後、分量のある英文に触れる機会を増やし、既習の語彙、表現、文構造に注意しながら、重要な部分について正確に読む力や、身近な場面や話題について英語で書く力を一層育成していくことが望まれる。